

## 20190715 パイオニアプランツ(ツリー)について

他の樹木がまだ生えていない裸地(伐採地や崩壊地などの土がむき出しになっている場所)などに真っ先に侵入してくる樹木をパイオニアプラント(先駆性樹種)という。これらは新たな森づくりの先頭に立って開拓していく。

### 1. パイオニアプランツの特徴として

- ①年による種の生産量の差がすくない。
- ②種は小さくて数が多い。
- ③種の飛散する距離が大きい。
- ④裸地ができたなら、すぐに発芽して成長できる。
- ⑤幼樹は高温(日差し)や乾燥に強い。
- ⑥寒さや強風などの厳しい自然環境にも耐えられる。
- ⑦少ない栄養分でも育ち、成長が早い。

やがて成長したパイオニアツリーたちが葉を拡げ、日陰を作り、落とした葉や枝が朽ちて土壌の養分となり、他の植物が育ちやすい環境を作ってくれる。

その反面、後から入ってきた他の樹木が大きく育ち、光を遮られると、勢いを失い、役目を終えるように枯れてしまうものも多いため、これらの樹木の寿命はおおむね短いといえることができる。

このような樹木が踏み台になってくれるおかげで、長い年月をかけて何百種類もの植物で構成し、春夏秋冬違う姿を見せて私たちの心を和ませてくれる豊かな森に育っていく。

### 2. 代表的なパイオニアプランツ

#### ①アカマツ(マツ科)

- ②アカメガシワ(トウダイグサ科) 雌雄異株 開花は6月 新葉には赤い鱗片が多数  
成長すると鱗片は脱落し、緑色の葉になる。葉の基部に密栓がアリ、アリが来訪する。  
赤褐色の長い葉柄。葉は3浅裂から全縁の広い卵型までの変化がある。



アカメガシワ

- ③クサギ(シソ科) 葉をもむと独特の臭気。花期は8~10月。赤紫のガクと白色の花冠  
長い葉柄。果実は黒紫色。額が5裂して花弁のように見える。葉は対生。



クサギ

- ④カラスザンショウ(ミカン科) アゲハチョウの食草。葉に油点がある。花期7~8月。  
奇数羽状複葉。小葉は7~15枚。浅い鋸歯。雌雄異株。花弁は5枚。トゲあり。



タラノキ

#### ⑤シラカバ(カバノキ科)

- ⑥タラノキ(ウコギ科) 枝先の頂芽のみが春に芽吹く。葉は互生。奇数2回羽状複葉  
小葉と葉軸の基部にトゲがある。若芽は食用。



ヤマウルシ

- ⑦ヤマウルシ(ウルシ科) 樹液にふれるとかぶれる。新芽が出るころはかぶれやすい。  
7から15の小葉からなる羽状複葉。側脈の数は少ない。紅葉する。